

プロジェクト代表者: 醍醐龍馬

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、小樽の市街開発に貢献した榎本武揚と小樽商科大学の関わりに着目し、高等商業学校誘致に果たしたその役割を新たに紐解くとともに、科学史家の加茂儀一第二代学長に始まり現在に至る榎本研究の伝統を整理し、それを自校史の中に位置づけることを目指すものであった。これにより、小樽商科大学における地域研究及び文理融合研究の進展をさらに促進する機会とするのみならず、これまでの研究成果を附属図書館に展示することを通じて、一般にも広くその成果を発信することを目的とした。その過程では、学内における教職員間の協働作業に加え、学外からも協力を得ることにより目標実現を目指した。従来、榎本武揚に所縁のある大学と言え、彼が創設した東京農業大学であり、彼が寄附という形で本学の誘致に関わった事実は広く知られていなかった。そこで今回の企画では、本学にゆかりのある人物として知られる小林多喜二、伊藤整、に次いで、三人目の歴史人物として本格的に広く打ち出すことを目的とした。

2. 具体的な取組内容

本プロジェクトは、近年本学が進めてきた榎本石鹼プロジェクトの成果を大学史の中に位置付け図書館展示に活かす試みである。2021年度に代表者が沼田ゆかり教授(化学)と始めた榎本石鹼プロジェクト(通称)は、現在では商学の教員をはじめ学内全体の協力を得て分野横断型で進みつつあり、産学連携で学外の企業との協働も進んでいる。これまでに小樽の不在地主だった榎本武揚が、小樽高等商業学校の誘致の際に尽力したことが明らかになった。さらに遡れば、榎本武揚の研究を始めたのは、本学第二代学長の加茂儀一だった。

これらの経緯と現在進行中の榎本石鹼プロジェクトの動向を踏まえつつ、本テーマに関し本学が取りくんできた成果物や国立国会図書館などで新たに収集した原史料を用いながら、本学附属図書館史料展示室に「榎本武揚と小樽商科大学」の新設展示の設置作業を進めた。具体的には、代表者の本年度開講ゼミを活用しながら本学開学の歴史を再調査し、榎本武揚とのかかわりを位置づけた。博物館学と歴史学の融合のような授業内容により、学生たちとしても自校史を紐解く展示づくりを通じて、座学にとどまらない貴重な体験ができた。また、展示室増設に際し図書館職員とも協働する教職員間の本格的コラボレーションが実現したことも本プロジェクトの特徴である。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

■ 展示内容の流れ「榎本武揚と小樽商科大学」(写真参照)

附属図書館史料展示室に新設した常設展示には、1: 開学理念と高商石鹼、2: 榎本武揚と小樽高商、3: 小樽商科大学における榎本武揚研究、4: 文理融合型の榎本石鹼プロジェクト、の流れでストーリー化した説明書きを掲示した。また展示物のコーナーでは、「榎本武揚と化学」「榎本武揚と小樽高商」「加茂儀一と榎本武揚」の三つのコーナーに分け、オランダ留学時代の榎本武揚名刺判写真をはじめ、高等商業学校寄付関係書類、榎本石鹼、新聞報道の記事などを陳列した。

■ シンポジウム「小樽商科大学伝統の榎本武揚研究と石鹼開発」の開催

2024年2月29日に、新設展示の公開に合わせて榎本石鹼プロジェクトに至る経緯に関するシンポジウムを開催した。第一部では宮田賢人准教授による司会の下、醍醐から「小樽商科大学における榎本武揚研究の軌跡ー加茂儀一第二代学長による科学史的着眼から現在の文理融合型プロジェクトへ」、沼田ゆかり教授からは「榎本石鹼の復刻と商品化の現状」を報告した。第二部では、新設展示の見学会を実施して榎本と本学の関わりを示す史料を説明するとともに、高商石鹼から受け継がれる本学における石鹼づくりの伝統を市民に説明した。

